

奨学金等進学資金ガイドンス

2023年4月更新版

説明資料



日本学生支援機構
スカラシップ・アドバイザー

今日のポイント

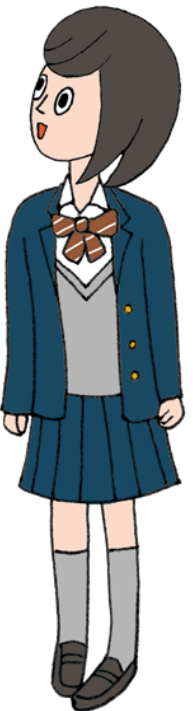
- ✓ 進学にかかる費用を知っておこう
- ✓ 奨学金制度の手続き・活用法について理解しよう
- ✓ 入学後と社会人になってからのライフプラン（将来生活設計）を明確にしよう
- ✓ 「お金」の知識を身につけよう

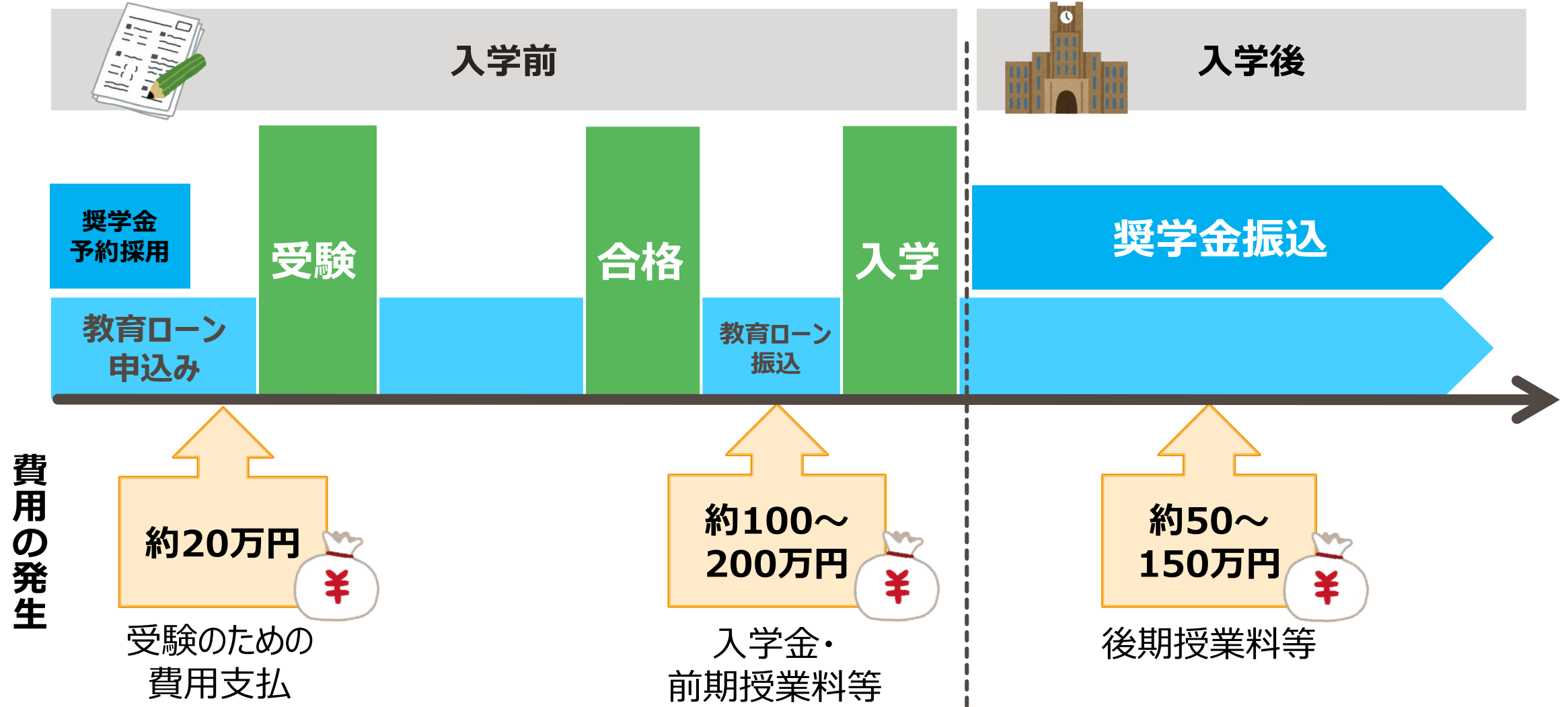
目次

【説明】

- 1 .進学に係る費用・・・・・・・・・・・・・・ P3
- 2 .奨学金制度①・・・・・・・・・・・・・・ P5
- 3 .奨学金の返還・・・・・・・・・・・・・・ P17
- 4 .まとめ（進学資金と奨学金）・・・ P22
- 5 .卒業後の収入・・・・・・・・・・・・・・ P23
- 6 .ライフプラン・・・・・・・・・・・・・・ P24
- 7 .奨学金の制度②・・・・・・・・・・・・・・ P25
- 8 .まとめ（全体を通して）・・・・・・ P27
- 9 .参考・・・・・・・・・・・・・・ P28

【ワーク】





※ 教育ローンは、1年中いつでも申込可能です。余裕をもって必要時期の2~3ヶ月前に申請をしましょう。

国の教育ローン

- 収入制限あり
- 350万円まで（学生一人あたり）
- 利子がつく
- 入学金に充てることができる

※日本政策金融公庫が行っています。

（近くの金融機関やインターネットで申し込み可能）

入学時特別増額貸与奨学金 （日本学生支援機構）

- 貸与奨学金とセットで利用
- 10万～50万円まで10万単位で選択
- 利子が付く
- 初回奨学金と一緒に振り込まれる
（入学前には振り込まれません）
- 労働金庫の「入学時必要資金融資制度」と併せて使えば、入学前に資金が得られる

※「国の教育ローン」を申し込み、審査が通らなかった人が対象です。

生活福祉資金貸付

- 低所得世帯
- 就学支度費50万円以内
- 無利子
- 必要な時期に振り込まれる

※市区町村または都道府県の社会福祉協議会に相談してください。

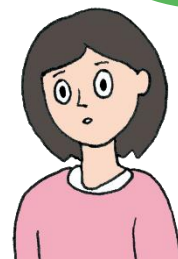
※全国社会福祉協議会ホームページ（リンク集）

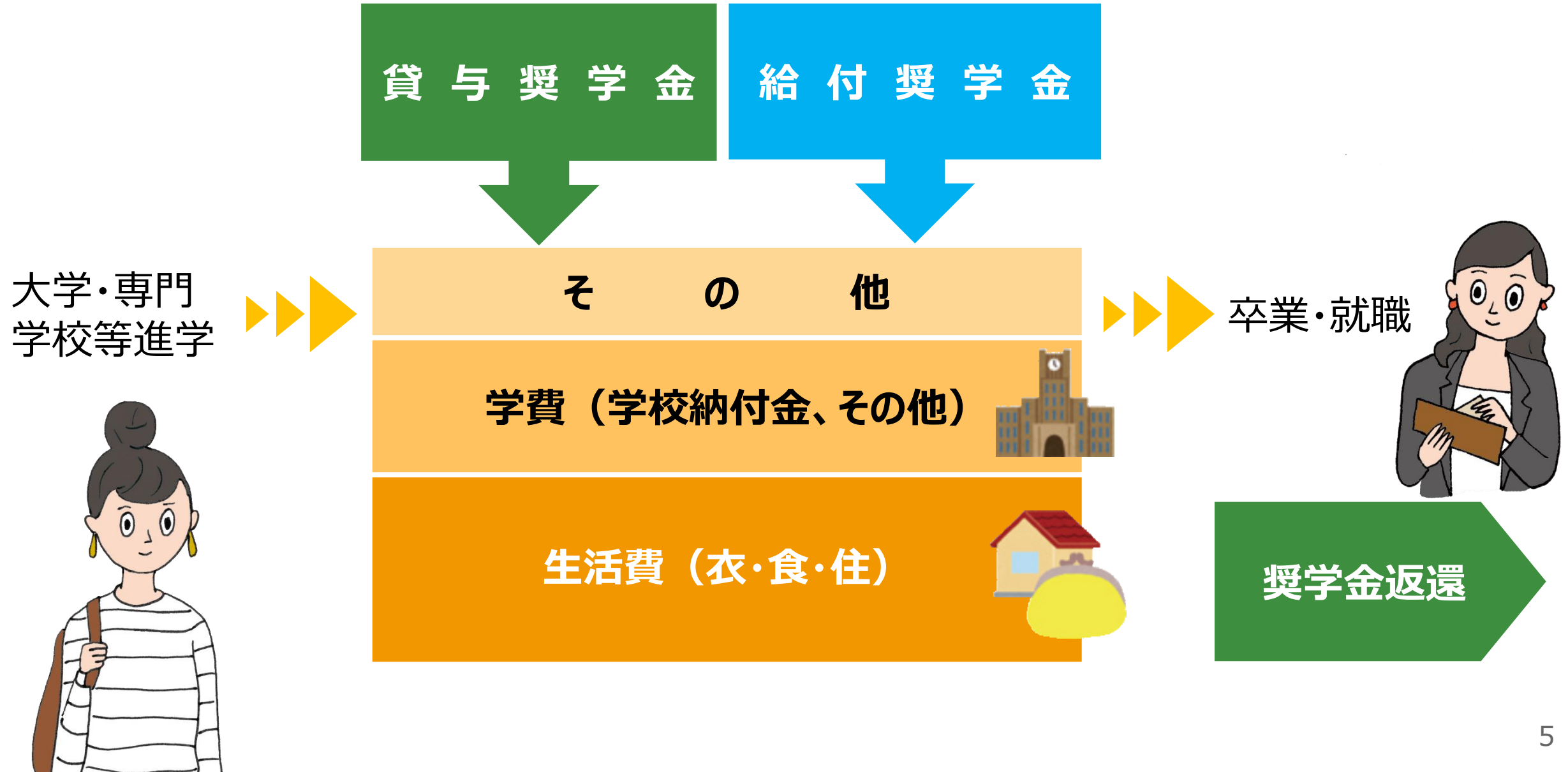
<https://www.shakyo.or.jp/network/kenshakyo/index.html>

母子父子寡婦福祉資金貸付金

- ひとり親家庭
- 就学支度資金
＜国公立大学・短大等＞
420,000円以内
＜私立大学・短大等＞
590,000円以内
- 無利子
- 必要な時期に振り込まれる

※地方公共団体の福祉担当窓口にご相談ください。







父の病気などもあり、奨学金制度がなければ大学に進むことは難しく、また、この制度がなければ今の自分ではなかったと思っております。

貸与

卒業後に、本人が働きながら返す

利子なし

第一種奨学金

利子付き

第二種奨学金

（第一種と第二種は併用可）

給付

（参考）

給付奨学金

+

授業料等減免

第二種は併用可
第一種は併用の制限あり

※国が実施している制度

※ 高等教育の修学支援新制度の対象機関（確認大学等）は文部科学省ホームページで確認できます。

https://www.mext.go.jp/kyufu/support_tg.htm

貸与

卒業後に、本人が働きながら返す

利子なし

第一種奨学金

利子付き

第二種奨学金

（第一種と第二種は併用可）

給付

（参考）

給付奨学金



授業料等減免

第二種は併用可
第一種は金額の制限あり

※国が実施している制度

※ 高等教育の修学支援新制度の対象機関（確認大学等）は文部科学省ホームページで確認できます。

https://www.mext.go.jp/kyufu/support_tg.htm



学力基準

- (1) 高等学校等における全履修科目の評定平均値が、5段階評価で3.5以上であること。
(※1)
 - (2) (1)に該当しない場合は、将来、社会で自立し、活躍する目標をもって進学しようとする学修意欲を有すること。(※2)
- (※1) 5段階評価をしていない学校は、これに準ずる学習成績。
(※2) 学修意欲の確認は、高等学校等において、面談の実施またはレポートの提出等により行う。



家計基準

収入の目安

(4人家族の場合)			
世帯構成 (★)が給与所得者の世帯	第Ⅰ区分 (住民税非課税世帯)	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分
本人、親①(★)、親②(無収入)、中学生	271万円以下	303万円以下	378万円以下
本人、親①(★)、親②(給与所得者)、中学生	親①：221万円以下 親②：115万円以下	親①：242万円以下 親②：155万円以下	親①：320万円以下 親②：155万円以下

- ※ 表中の数字はあくまで目安です。収入基準は収入・所得に基づく住民税情報等により設定されるため、世帯構成、障がい者の有無、各種保険料の支払い状況等により、目安の金額を上回っていても対象となる場合や下回っていても対象とならない場合があります。
- ※ 日本学生支援機構のホームページに掲載している「進学資金シミュレーター」で、収入基準に該当するか、およその目安を確認できます。

資産基準

- 本人と生計維持者(親)の資産の合計が一定額(※)未満であること
- ※ 生計維持者が一人の場合：1,250万円、生計維持者が二人の場合：2,000万円



学力基準

- (1) 高等学校等における全履修科目の評定平均値が、5段階評価で3.5以上であること。
(※1)
 - (2) (1)に該当しない場合は、将来、社会で自立し、活躍する目標をもって進学しようとする学修意欲を有すること。(※2)
- (※1) 5段階評価をしていない学校は、これに準ずる学習成績。
(※2) 学修意欲の確認は、高等学校等において、面談の実施またはレポートの提出等により行う。



家計基準

収入の目安

(4人家族の場合)			
世帯構成 (★)が給与所得者の世帯	第Ⅰ区分 (住民税非課税世帯)	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分
本人、親①(★)、親②(無収入)、中学生	271万円以下	303万円以下	378万円以下
本人、親①(★)、親②(給与所得者)、中学生	親①：221万円以下 親②：115万円以下	親①：242万円以下 親②：155万円以下	親①：320万円以下 親②：155万円以下

- ※ 表中の数字はあくまで目安です。収入基準は収入・所得に基づく住民税情報等により設定されるため、世帯構成、障がい者の有無、各種保険料の支払い状況等により、目安の金額を上回っていても対象となる場合や下回っていても対象とならない場合があります。
- ※ 日本学生支援機構のホームページに掲載している「進学資金シミュレーター」で、収入基準に該当するか、おおよその目安を確認できます。

資産基準

- 本人と生計維持者(親)の資産の合計が一定額(※)未満であること
- ※ 生計維持者が一人の場合：1,250万円、生計維持者が二人の場合：2,000万円

世帯の所得金額に基づく区分（第Ⅰ区分～第Ⅲ区分）に応じて、学校の設置者（国公立・私立）及び通学形態（自宅通学・自宅外通学）により下表の金額（月額）が、原則として毎月振り込まれます。

区 分		国 公 立		私 立	
		自宅通学	自宅外通学	自宅通学	自宅外通学
大学・短期大学・ 専修学校（専門 課程）	第Ⅰ区分	29,200円 (33,300円)	66,700円	38,300円 (42,500円)	75,800円
	第Ⅱ区分	19,500円 (22,200円)	44,500円	25,600円 (28,400円)	50,600円
	第Ⅲ区分	9,800円 (11,100円)	22,300円	12,800円 (14,200円)	25,300円

※毎年10月に支援区分が見直されます。その際、所得の状況によっては支援区分対象外になる場合があります。

※高等専門学校の支給金額については、日本学生支援機構のホームページをご確認ください。<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kyufu/kingaku.html>

- ① 生活保護世帯の人及び進学後も児童養護施設等から通学する人は、上表のカッコ内の金額となります。
- ② 自宅通学とは、学生が生計維持者（父母等）と同居している（またはこれに準ずる）状態のことをいいます。進学後の手続きにおいて、「自宅外通学」の月額を選択する場合、自宅外通学であることの証明書類の提出が必要です。

1. 給付奨学金を利用できる学校は、国、地方公共団体から対象となることの**確認を受けた学校のみ**となります。
2. 進学先の学校で別途手続きを行うことで、大学等における**授業料及び入学金減免も併せて**対象となります。
3. 外国籍の人は、**在留資格**によって申込資格に制限があります。
4. 給付奨学金の申込みには申込者本人と生計維持者の**マイナンバーの提出**が必要です。
5. 第一種奨学金を併用する場合、**第一種奨学金の貸与月額が減額または0円**となります。
6. 自宅外通学の月額支給を受けるためには、**自宅外通学であることの証明書類の提出**が必要です。
7. **学業成績が不振**などの場合は、奨学金の支給が打ち切られる場合があります。
8. 毎年度、経済状況における**適格性の審査**によって支給額が見直されます。

貸与奨学金の申込の目安（日本学生支援機構）（予約採用の場合）

2. 奨学金制度①

(4人家族の場合)	第一種（利子なし）	第二種（利子付き）	第一種・第二種をあわせて借りる併用
 学力基準	3.5 以上 ※ （5段階評価）	平均水準以上である人 又は意欲のある人	3.5 以上 ※ （5段階評価）
 収入の目安 （会社員）	803 万円以下	1,250 万円以下	743 万円以下
 所得の目安 （個人事業）	552 万円以下	892 万円以下	506 万円以下

※生計維持者が住民税非課税である人等は、学修意欲がある者として学校から推薦されれば、学力基準を満たすものとしています。

※上記収入基準は目安であり、この金額以上／以下でも、採用／不採用となることがあります。

奨学金の種類	月額区分	学校の種別 (進学先)	貸与月額（原則として、毎月1回振込み）			
			国 公 立		私 立	
			自宅通学	自宅外通学	自宅通学	自宅外通学
第一種奨学金 (利子なし)	最高月額	大 学	45,000円	51,000円	54,000円	64,000円
		短期大学・専修（専門） ・高専（4・5年生）	45,000円	51,000円	53,000円	60,000円
	最高月額 以外	大学・短期大学 ・専修（専門） ・高専（4・5年生）	30,000円 20,000円	40,000円 30,000円 20,000円	40,000円 30,000円 20,000円	50,000円 40,000円 30,000円 20,000円
第二種奨学金 (利子付き)	大学・短期大学・専修（専門） ・高専（4・5年生）		20,000円～120,000円（10,000円単位）			
入学時特別増額 貸与奨学金	大学・短期大学・専修（専門） ・高専（4・5年生）		100,000円～500,000円（100,000円単位）			

※希望する月額を選べます。ただし第一種奨学金の「最高月額」の利用には、第一種・第二種の併用貸与の家計基準を満たしている必要があります。

※入学時の一時金として、月額の初回振込時に増額して借りられる、利子付きの「入学時特別増額貸与奨学金」があります。

（入学時特別増額貸与奨学金の利率は、原則として通常の第二種奨学金の利率の値に0.2を加えた値になります）

※高専1～3年生にも、月額10,000円～35,000円が貸与される第一種奨学金制度があります。

※給付奨学金を受ける場合、第一種の貸与月額が制限される場合があります。

詳しくは、日本学生支援機構のホームページをご確認ください。<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/seido/kingaku/1shu/2019ikou.html> 14

所得連動返還方式

返す月額を毎年見直し

所得に応じた月額で返還

例 年収:300万円 → 月額:約 **8,600円**
 年収:450万円 → 月額:約 **15,400円**

特長

所得があまり高くない時でも
無理のない月額で返還できるので、
将来のリスクに備えられます。

定額返還方式

返還完了まで返す月額が同じ

借りた総額に応じた月額で返還

例 5万円を4年間(240万円)借りた場合
→月額:約 **13,333円(15年間)**

特長

最後まで同じ月額で返還するので、
返還の計画がたてやすくなります。

返還月額[円]

【モデルケース】 返還方式による返還例の比較



※ 所得連動返還方式の返還月額は前年の収入(所得)により変動し、収入が少なければ返還期間が長くなり、多ければ短くなります。返還総額はどちらの返還方式も同じです。

※ 年収と返還月額は目安です。定額返還方式の返還月額は貸与総額に応じて決まります。

※ 第一種奨学金のみ返還方式を選択することができます。第二種奨学金は定額返還方式で固定されます。



奨学金の保証制度

機関保証

保証機関に一定の保証料を支払い、連帯保証を受けます。

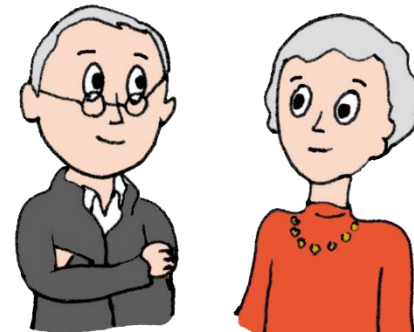
延滞が進んだ場合、保証機関がいったん日本学生支援機構に返還をしますが、本人の返還義務がなくなるわけではなく、その後、保証機関にお金を返す必要があります。

※所得連動返還方式を選択した場合は、「機関保証」の選択が必要

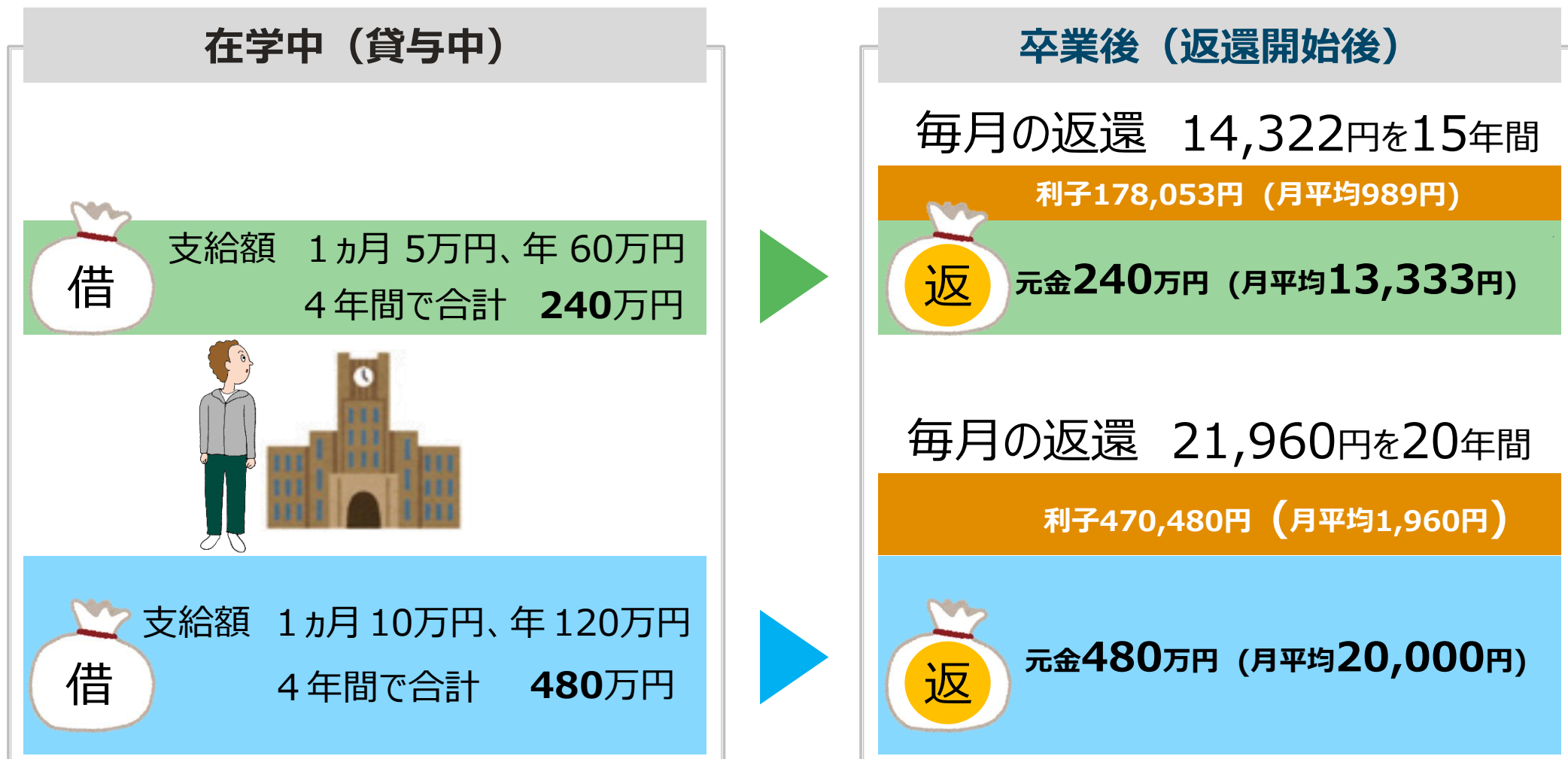


人的保証

連帯保証人（父母）および保証人（おじ・おば等）を依頼し、その人による保証を受けます。



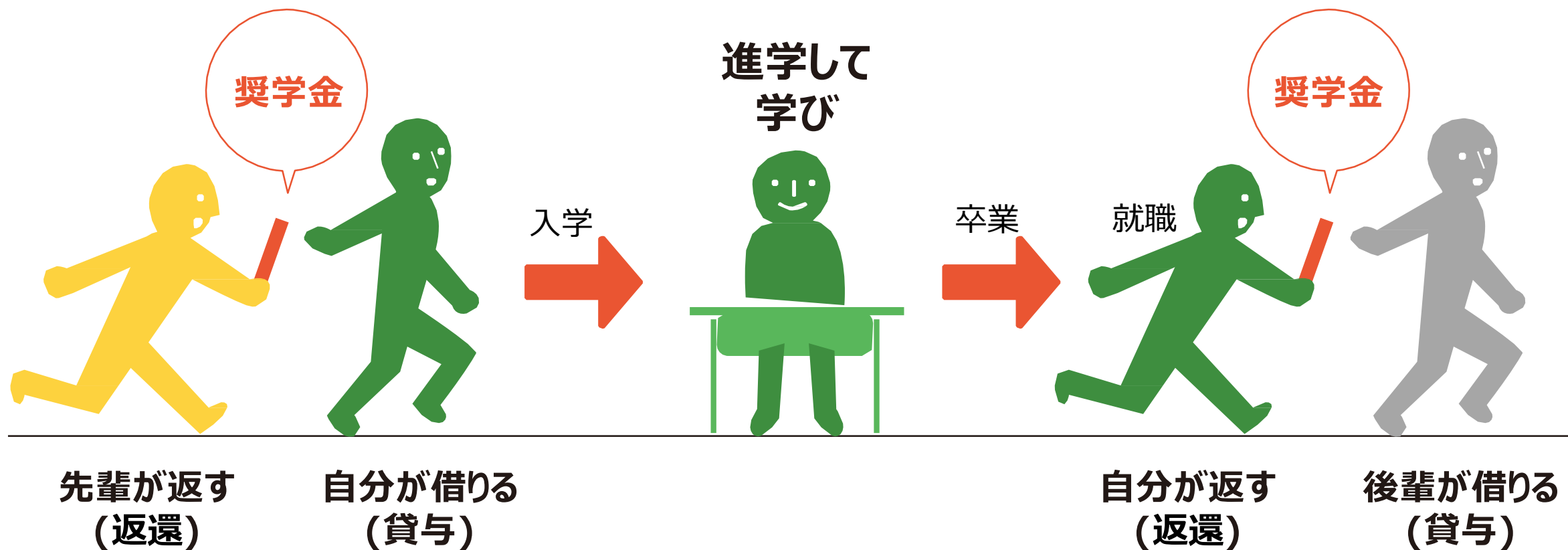
第二種 (利率0.905%※) の場合

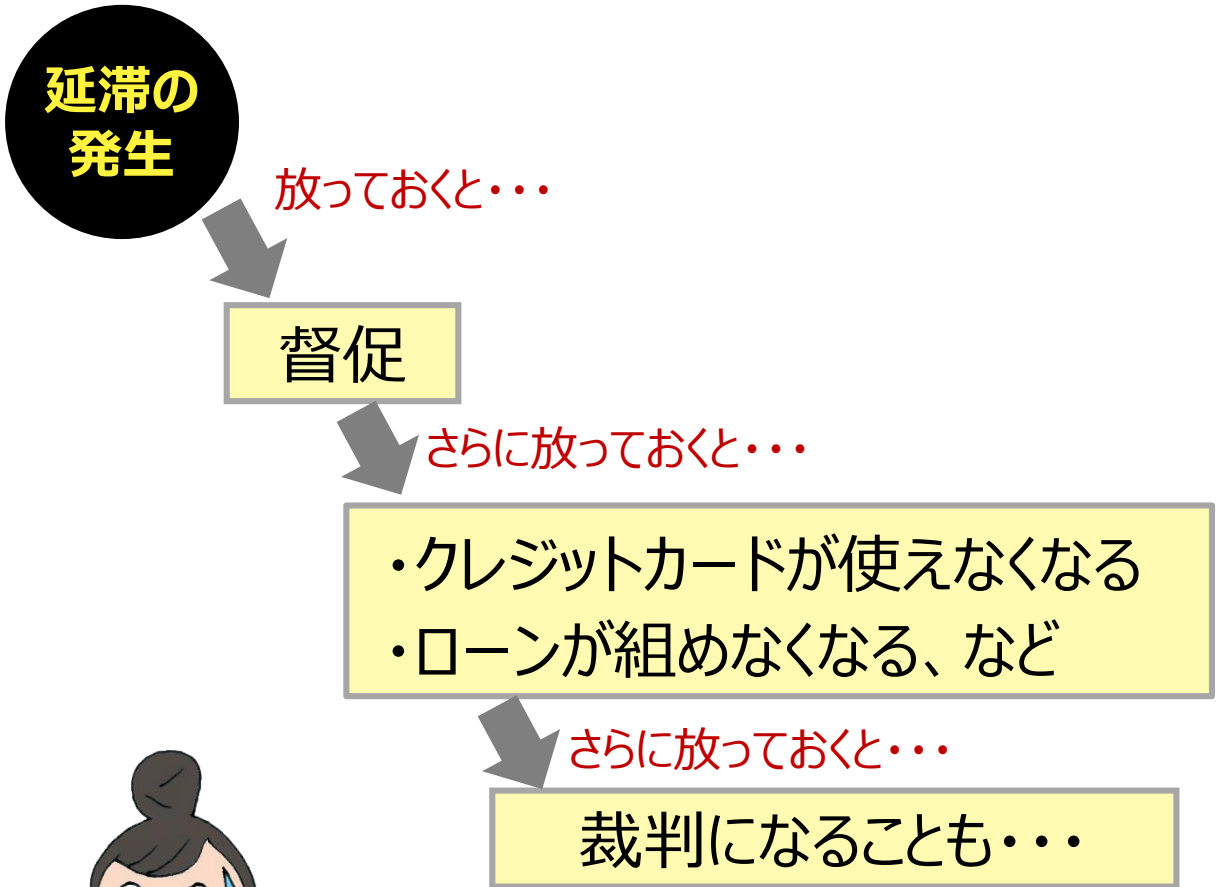


※ 利率0.905%は、令和5年3月末貸与終了者に適用される利率 (利率固定方式) です。

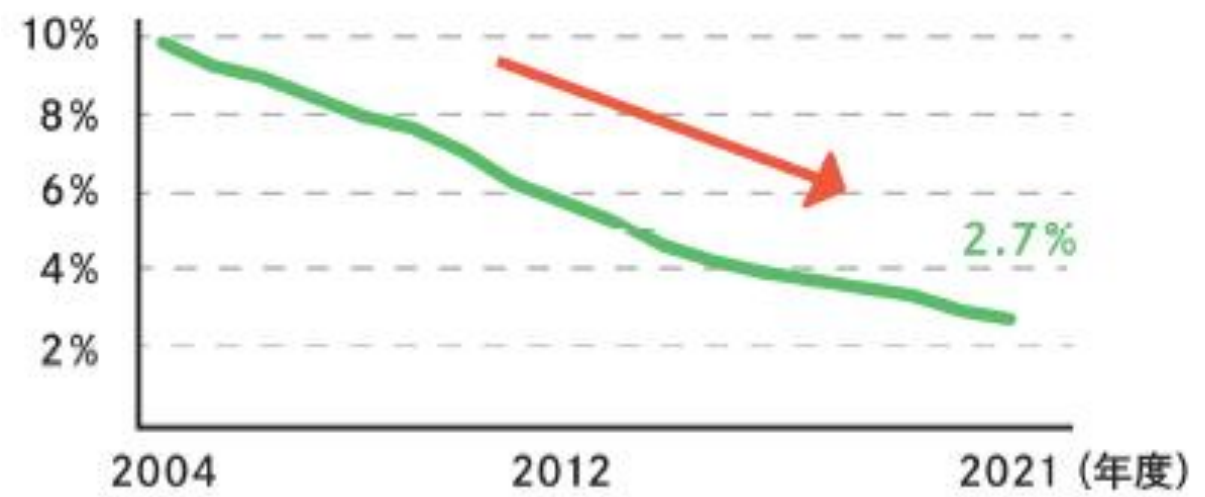
注) 定額返還方式の例 (所得等の事情により、返還の救済措置もあります)

図の中の元金と利子の月平均額はイメージですので、実際の月額の内訳とは異なります。





返還者に占める3ヵ月以上延滞者の割合



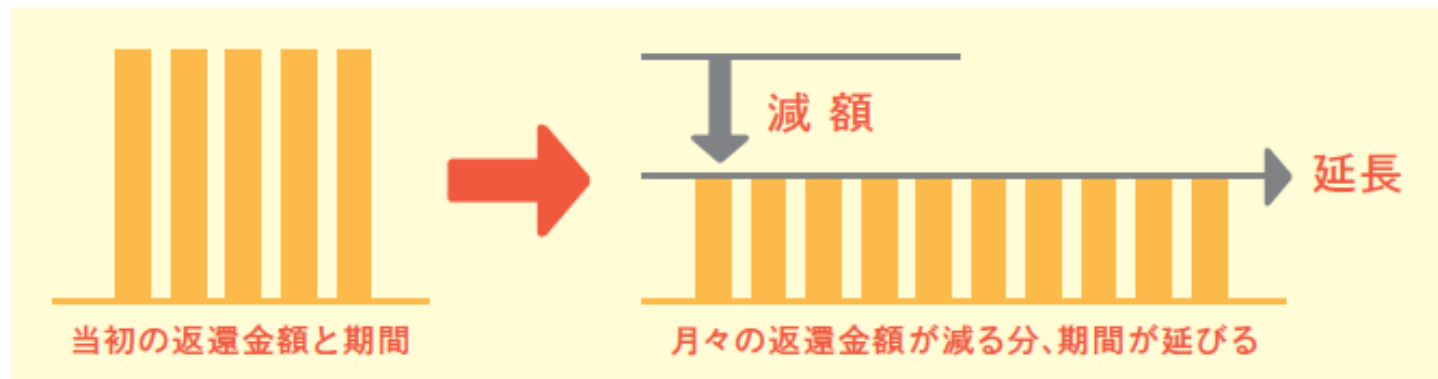
困ったときには、コールセンターに電話で相談してください。

日本学生支援機構 奨学金相談センター
電話：0570-666-301（ナビダイヤル） 月曜～金曜：9時00分～20時00分（土日祝日・年末年始を除く）
海外からの電話、一部携帯電話、一部IP電話からは03-6743-6100
返還が難しくなったとき、延滞を防ぐ「セーフティネット」があります。
(返還を一定期間先延ばしする「返還期限猶予制度」や、返還月額を減らす「減額返還制度」など)

～ 病気・失業等で奨学金の返還が困難になった場合 ～

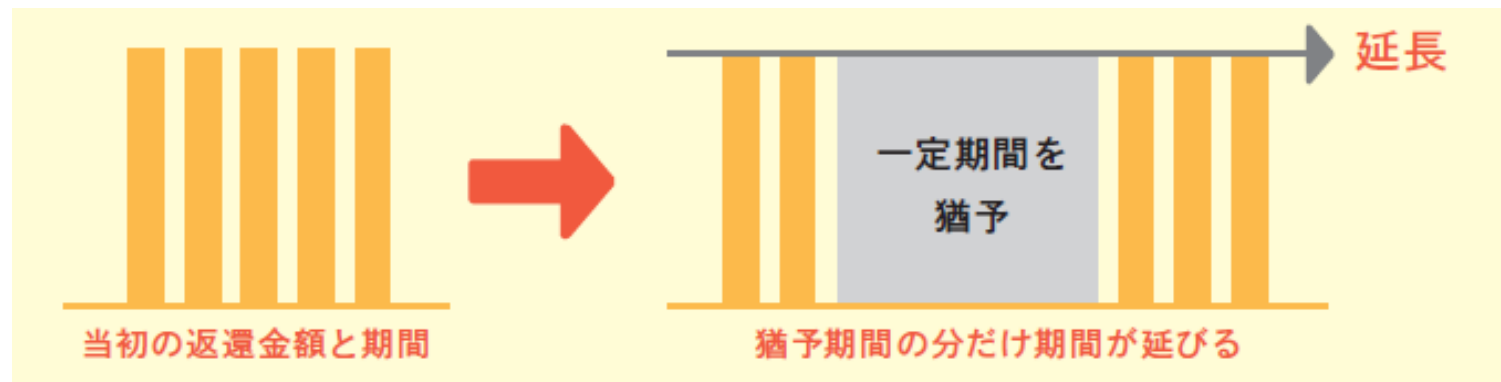
減額返還制度

毎月の返還額を1/2または1/3に減額して返還する制度



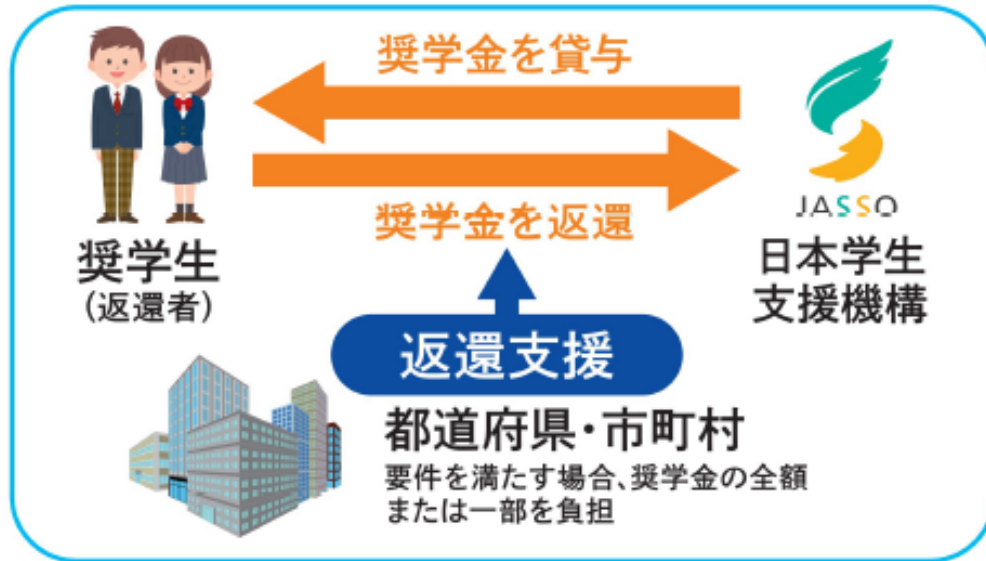
返還期限猶予制度

返還を先送りする制度



地方創生による奨学金返還支援制度

地方公共団体と地元産業界が協力し、地元企業に就職した方の奨学金返還を支援する仕組みが設けられています。



地方公共団体の奨学金制度について、JASSOのホームページ内「奨学金チャットボット」において情報を提供しています。

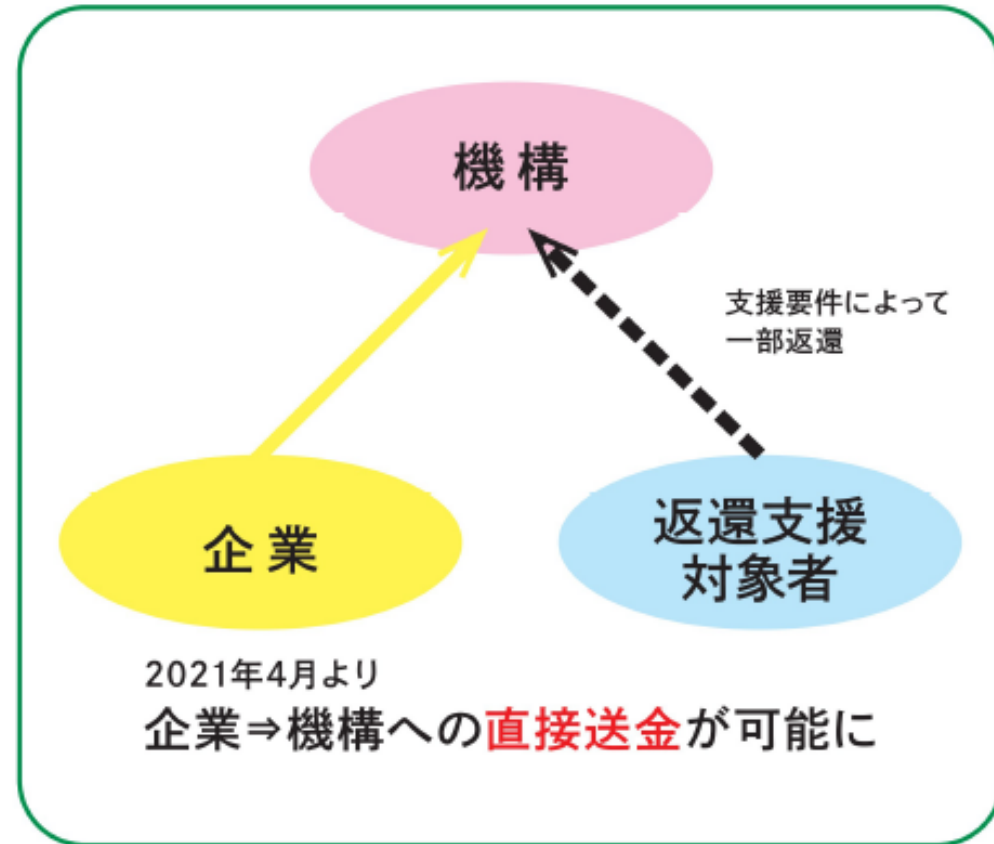
<奨学金チャットボット>

<https://bot.talkappi.com/bot?id=jasso>



企業の奨学金返還支援(代理返還)制度

各企業の担い手となる奨学金返還者を応援するための取組として、社員に対し、返還額の一部又は全額を支援する制度があります。

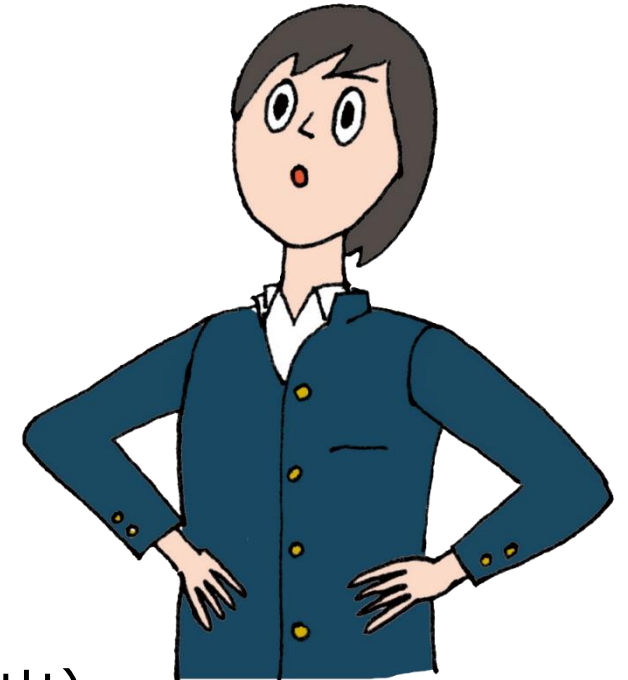


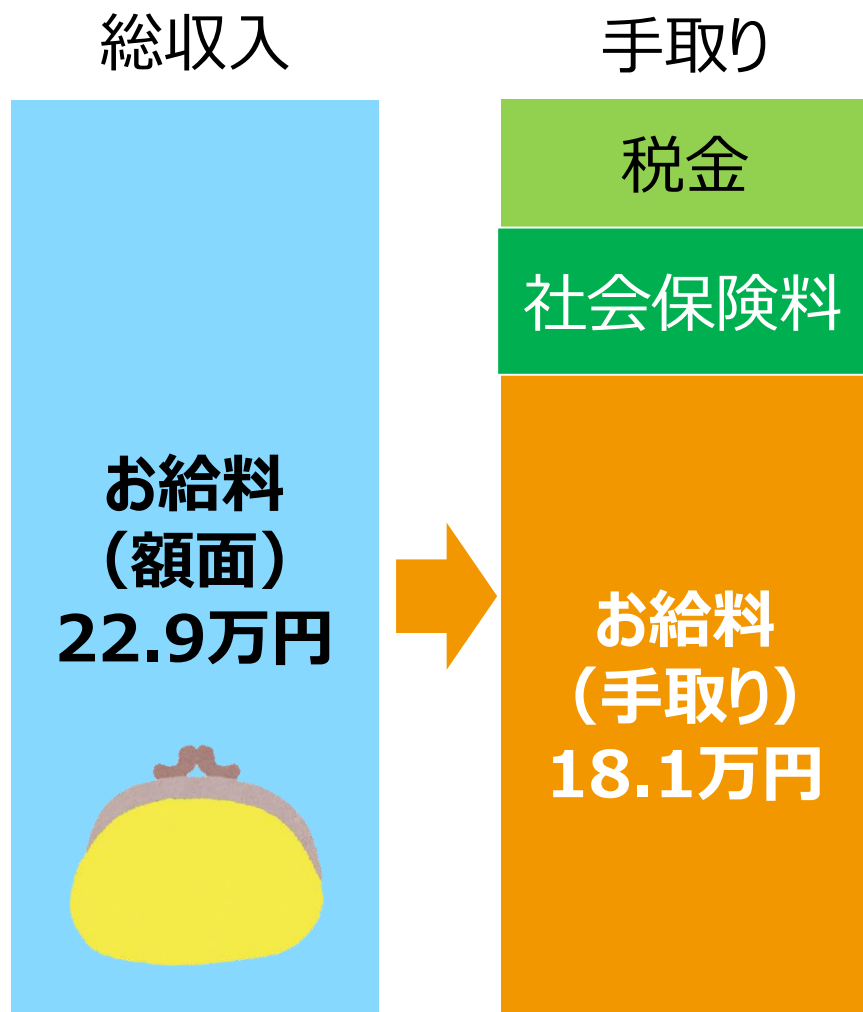
- 進学の意志・意味
- 進学スケジュールの確認 例) 総合型選抜 or 一般選抜
- 資金スケジュールの確認
- 入学式前にかかる資金の確保 例) 教育ローン



〈奨学金を利用する場合のポイント〉

- 家計支持者の収入を証明するものが必要 (マイナンバー等の提出)
- 家族の状況を確認 (単身赴任、母子家庭等、障がいのある方)
- 保証人がいなくても「機関保証」を受ければ利用できる
- 進学資金シミュレーターを活用して学生生活費をシミュレーションしてみる





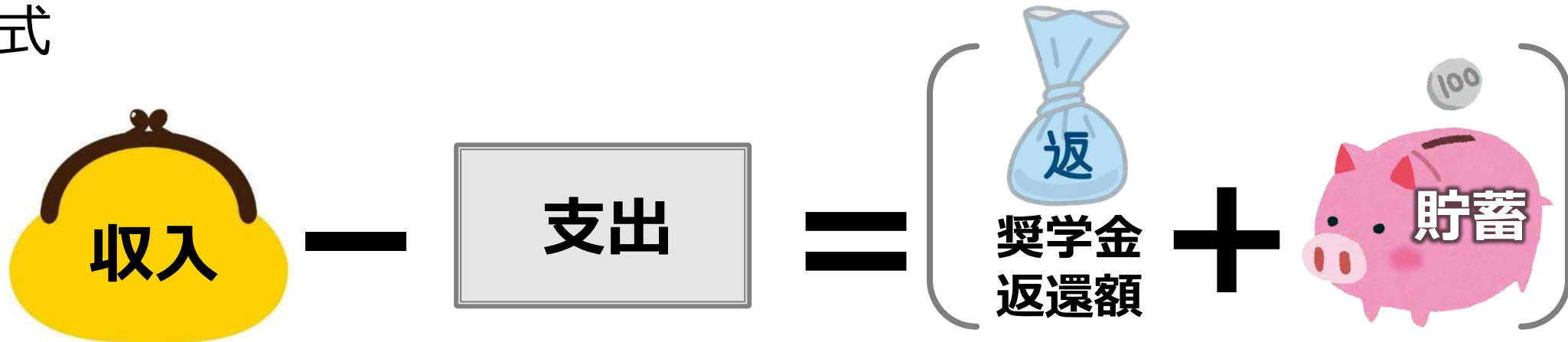
給与明細の例

（単位：円）

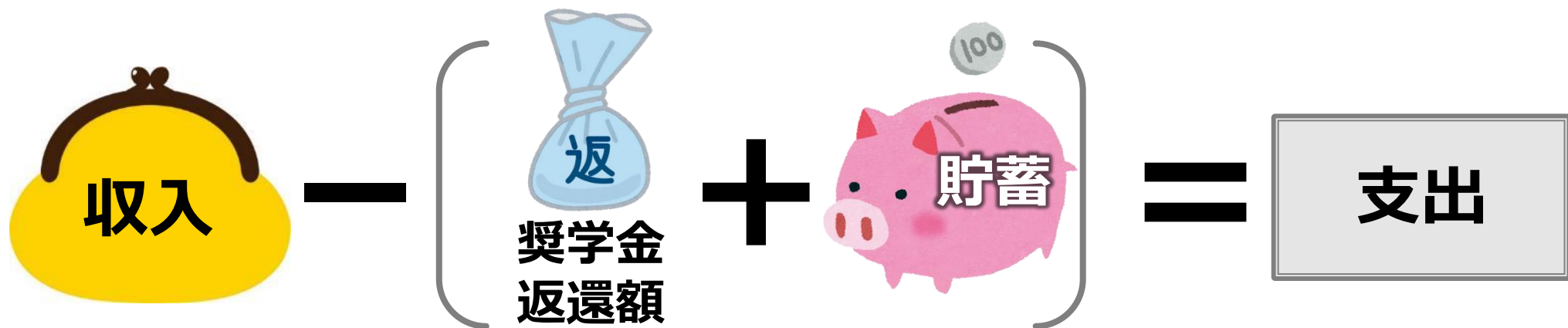
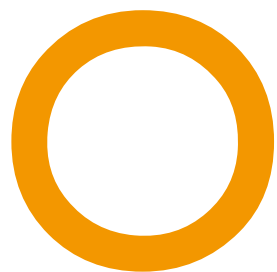
支 給		控 除	
項 目	金 額	項 目	金 額
基本給	211,000	健康保険料	10,824
時間外手当	8,000	介護保険料	0
通勤手当	10,000	厚生年金保険料	20,130
		雇用保険料	687
		所得税	4,700
		住民税	11,959
総支給額	229,000	控除額総計	48,300
		差引支給額	180,700

※給与明細の例は機構で作成したもので、実際の保険率・税率と異なる場合があります。

貯蓄の方程式



収入から支出した残りで奨学金を返還し、残ったらお金を貯める方法では、生活のバランスを崩します。




あらかじめ収入から「奨学金返還額」と「貯蓄」を引いておき、残りのお金で生活します。

高校3年生

貸与奨学金・給付奨学金



新学期
スタート


**予約採用申込み
（在籍の高校にて）
※奨学金担当の先生
（学校により異なります）**


受験

入学



進学後

貸与奨学金・給付奨学金
（緊急時の採用を含む）


**在学採用申込み
（進学先にて）
※学生課・厚生課等**

緊急・応急採用（貸与奨学金）

家計急変採用（給付奨学金）

奨学金の申込みには、生計維持者と本人の**マイナンバー**の提出が必要です。

高校3年生



① **申込み**（生徒） ※申込み時期は学校により異なります。

- インターネットによる申込み
- **マイナンバー**の提出（**直接機構に郵送**）
- その他申込書類の提出（学校で取りまとめ）

② **推薦**（学校→機構）

③ **採用候補者の決定**（機構）

④ **採用候補者への通知**（機構→学校→生徒）

- 学校へ到着した「採用候補者決定通知」等を生徒に交付

⑤ **進学届の提出**（学生→機構） ※提出時期は進学先により異なりますので、**進学後に必ず**確認しましょう。

- **進学届**の提出（インターネットによる）※給付奨学金の採用候補者は、授業料等減免手続も必要

⑥ **奨学生として採用・通知**（機構→学生）

- **奨学金の振込み開始**

大学等へ進学



奨学金を申請する前に

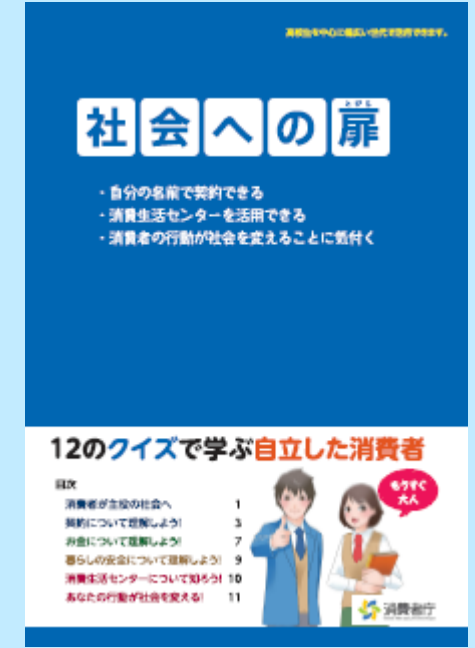
- 貸与奨学金 = 借金 = 自己投資
- 進学する意志・意味を確認しよう (= 進学先で何を学びたいか)
- 進学に係る資金やスケジュールについて考えよう
(= 学校独自の奨学金等を活用できるか、より安く学べる学校はないか)
- 奨学金の振込はストップされることがある
- 延滞したままにすると、督促や個人信用情報機関への登録、法的処理になるので要注意！



奨学金制度は大きく変わることがあります。

申し込むときには必ず、日本学生支援機構のホームページを確認し、また、学校の先生に相談をしてください。

こちらも見よう！
消費者として、あなたにできること。



消費者庁HPから
確認してみましよう。

奨学金相談センター

電話：0570-666-301（ナビダイヤル）

海外からの電話、一部携帯電話、一部 I P 電話からは03-6743-6100

月曜～金曜：9時00分～20時00分（土日祝日・年末年始を除く）

政府インターネットテレビ

高等教育の修学支援新制度（140秒の動画）

<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg20475.html>

霞が関情報チェック ～高等教育の修学支援新制度（BS-TBS 令和2年5月3日放送）

<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg20625.html>

文部科学省 修学支援新制度ホームページ

<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>

日本学生支援機構 進学資金シミュレーター

<https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>

日本学生支援機構 奨学金ホームページ

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>

入学までにかかる費用（大学の例）

ワーク①(学生生活費)

(単位：円)

	自宅		下宿等	
	私立	国公立	私立	国公立
出願をするためにかかった費用	143,900	115,800	129,700	115,300
受験のための費用	32,900	28,200	78,300	81,000
入学した大学への学校納付金	915,200	607,100	915,400	612,000
入学しなかった大学への学校納付金	264,500	255,400	256,000	265,200
合格発表や入学手続きのための費用	13,500	10,800	52,100	50,900
入学式出席のための費用	13,000	12,200	41,000	39,200
教科書・教材購入費用	180,000	226,900	211,200	250,000
住まい探しの費用	—	—	293,500	232,900
生活用品購入費用	79,900	87,600	299,000	300,700
その他の費用	100,800	124,200	299,000	354,000
合計	1,757,800	1,387,600	2,465,200	2,128,700

出願、受験、
学校への
納付金



教材購入
など



※なお、上記の各費目の平均額を合計したものと、合計の平均額は一致しない。全国大学生生活協同組合連合会「2022年度保護者に聞く新入生調査」をもとに作成。 29

区 分	入 学 料	授 業 料	施設設備費	合 計
国立大学	282,000	535,800	—	817,800
公立大学	地域内 226,856 地域外 389,125	536,195	—	地域内 763,051 地域外 925,320
私立大学 (文科系学部)	225,651	815,069	148,272	1,188,991
私立大学 (理科系学部)	251,029	1,136,074	179,159	1,566,262
私立大学 (医歯系学部)	1,076,278	2,882,894	931,367	4,890,539
専門学校 (専修学校専門課程)	183,000	695,000	203,000	1,081,000

- ※ 国立大学は文部科学省令第16号「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」の標準額を記載。 (単位：円)
- ※ 公立大学は文部科学省の「2022年度学生納付金調査」の大学昼間部99大学の平均値を記載。
なお、公立大学の入学金は県内進学者と県外進学者で異なる場合があるため、「地域内」：県内進学者、「地域外」：県外進学者として分割。
- ※ 私立大学は文部科学省の「令和3年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員1人当たり）の調査結果について」、専門学校（専修学校専門課程）は東京都専門学校各種学校協会の「平成3年度学生・生徒納付金調査」（千円以下四捨五入）をもとに作成。
- ※ 他にも、実習費等の費用が必要となるケースもあります。





学 費



(単位：円)

	自宅			下宿等		
	国 立	公 立	私 立	国 立	公 立	私 立
修学費	50,100	54,400	45,900	47,000	46,500	45,700
課外活動費	20,700	11,000	16,200	26,900	13,100	23,300
通学費	61,800	69,000	66,200	8,500	12,100	17,700
食費	80,300	72,600	86,700	288,400	265,600	267,400
住居・光熱費	-	-	-	530,400	493,000	483,000
保健衛生費	36,600	41,300	41,400	40,200	43,900	43,100
娯楽・嗜好費	113,500	111,300	131,100	136,900	137,400	135,700
その他の日常費	123,800	125,000	132,800	146,900	173,400	162,400
合 計	486,800	484,600	520,300	1,225,200	1,185,000	1,178,300



生活費

※各費用は、日本学生支援機構「令和2年度学生生活調査結果」（大学昼間部）をもとに作成。

(単位：円)

	あなたの 支出プラン	平均的な支出額	
		自宅	下宿等
授業料		80,000	71,000
その他の学校納付金		11,000	9,000
修学費		4,000	4,000
課外活動費		1,000	2,000
通学費		5,000	1,000
食費		7,000	23,000
住居・光熱費		—	41,000
保健衛生費		3,000	4,000
娯楽・嗜好費		11,000	11,000
その他の日常費		11,000	13,000
合 計		133,000	179,000

志望校の授業料、その他の学校納付金（入学料＋施設設備費）を調べて、12で割り、月額を計算してみよう。

下宿を希望する場合、インターネットで家賃等を調べてみよう。



※ 平均的な支出額は、日本学生支援機構「令和2年度学生生活調査結果」（大学昼間部）をもとに作成。

(単位：円)

	あなたの収入プラン	平均的な収入額	
		自宅	下宿等
家庭からの給付（仕送り、小遣い）		79,000	120,000
奨学金		28,000	35,000
アルバイト		34,000	28,000
定職収入・その他		3,000	5,000
合計		144,000	188,000

※ 平均的な支出額は、日本学生支援機構「令和2年度学生生活調査結果」（大学昼間部）をもとに作成。

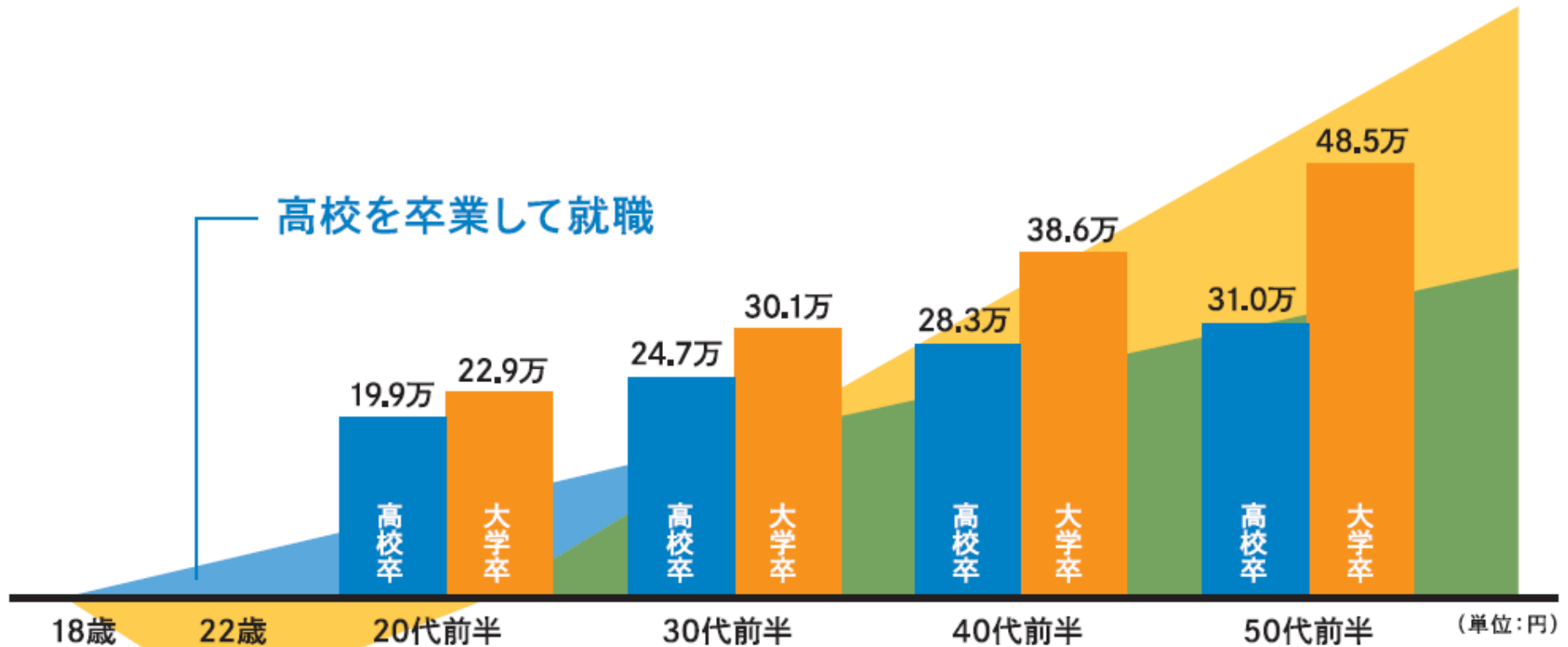
(参考) 前のページとこのページの「ワーク」は、日本学生支援機構「進学資金シミュレーター」の「**学生生活費シミュレーション**」でもやってみることができます。右のQRよりご参照ください。





高校卒

大学等卒



高校を卒業して就職

奨学金を借りて大学等で学び、就職して返還

将来大きく飛躍するための自己投資の部分です。

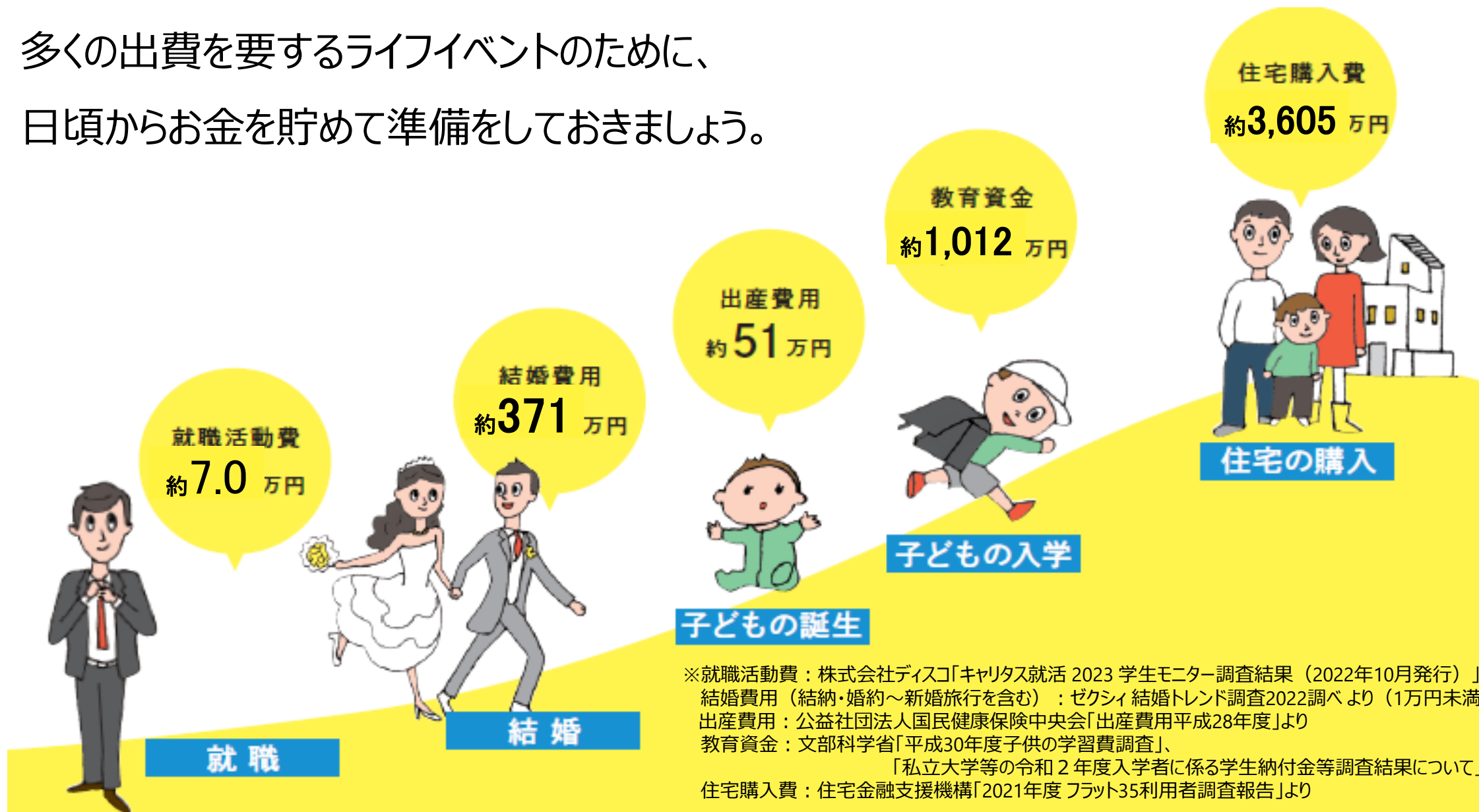
※厚生労働省「令和3年賃金構造基本統計調査（男性の場合）」をもとに機構が作成。

(単位：円)

	項目	平均額	卒業後の収入・支出額
手取り収入		180,700	
支出内訳	食費	35,418	
	住居費	35,951	
	水道光熱費	7,675	
	家具・家事用品	6,954	
	被服及び履物	6,509	
	保健医療	4,683	
	交通・通信	20,839	
	教育娯楽	19,839	
	その他	20,220	
支出合計		158,088	
収入－支出（貯蓄可能・返還可能）		22,612	

※支出内訳は総務省統計局家計調査（2021年）をもとに機構が作成。

多くの出費を要するライフイベントのために、
日頃からお金を貯めて準備をしておきましょう。



年齢		23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳
収入 (給料)		300万円	320万円	340万円	360万円	380万円	400万円	420万円	440万円
支 出	生活費	240万円	240万円	240万円	240万円	300万円	300万円	300万円	300万円
	一時的 支出	20万円		50万円	20万円		20万円		50万円
	奨学金 返還	26万円	26万円	26万円	26万円	26万円	26万円	26万円	26万円
年間収支		14万円	54万円	24万円	74万円	54万円	54万円	94万円	64万円
貯蓄残高		14万円	68万円	92万円	166万円	220万円	274万円	368万円	432万円

※3月卒業者は次の10月から奨学金返還がスタートします（表の返還額は定額返還の例です）